農林水産省認定「疏水百選」

稲生川（いなおいがわ）ガイドマップ

稲生川の取水口から十和田市街地までの流路や主な見学スポットをイラストにしました。
稲生川は十和田市街を通って、さらに太平洋まで流れています。

★ 主な見学スポット
● 目印の建物

稲生川の主な見学スポット

1 稲生川取水口

奥入瀬川から稲生川へ取水する水門。
稲生川のスタートポイントで、取水口周辺は公園として整備され、開拓に使用された工具のレリーフなどがあります。

2 天狗山（てんぐやま）トンネル出口

稲生川には1,620mの「天狗山トンネル（穴堰）」と2,540m「鞍出山（くらでやま）トンネル」の2つのトンネルがありますが、とくに天狗山トンネル出口は近くで見学できるポイントです。
トンネルは工事の難所の一つで、当時は横穴を使った工法がとられました。

3 幻の穴堰（あなぜき）

新渡戸十次郎の第二次上水計画により慶応2年（1866年）に掘られたトンネル（穴堰）。十次郎が慶応3年に亡くなったため完成していません。内壁には当時の工具による掘り跡などが残っています。
※現在「幻の穴堰」は、封鎖されています。

4 山神（やまのかみ）の碑

安政3年（1856年）穴堰工事の安全を祈って稲生川の工事技術者たちが建てた石碑です。「山神」（やまのかみ）の文字の下には頭取の吉助をはじめとする技術者たちの名前が刻まれています。

5 巫女塚（いたこづか）

「巫女塚」と呼ばれるこの場所では、稲生川は道路から5メートルも高く築かれた石垣の上を流れています。山の斜面に沿わせる形に盛り土して水路を形成する「片堤」の工法が取られており、稲生川工事の一番の難所と言えます。

6 京ノ館（きょうのだて）の合流点

三本木原台地の入口にあたる地点で、稲生川は急に高くなった地盤をえぐるように10mも掘り下げたところを通っています。また、この場所で国営用水路（写真向かって右）が稲生川に合流しています。

7 稲生橋（いなおいばし）

稲生川と奥州街道（旧国道4号）が交差する場所に「稲生橋」があります。万延元年（1860年）三本木原開拓の視察に訪れた盛岡藩主・南部利剛公が、新しくできた用水路と橋と町に「稲生」の名を与えました。

8 太素塚（たいそづか）

明治4年（1871年）9月27日、新渡戸傳は三本木で亡くなり、この太素塚に埋葬されました。（享年79歳）その後、向かって左には長男・新渡戸十次郎、右には孫・新渡戸稲造の墓が分葬により建てられました。